



中学生サッカー教室

7月19日(土)
味の素スタジアム
アミノバイタルフィールド



調布
狛江
保護司会だより

NO.33

発行責任者

調布狛江保護司会
会長 高木 光



中学生サッカーと関わり

FC東京

社長 阿久根 謙司

毎年夏に開催させていただいております中学生サッカー教室は、平成十四年度にスタートし今年で十三回になります。きっかけは保護司会の方からお誘いを受けて開催するようになったことに始まります。三年前くらいまでは、サッカー初心者の中学生も混じっておりましたが、その後はほとんどが中学校のサッカー部に入っている、あるいはクラブチームに所属している中学生による参加となっております。

毎回の開会式でお話しさせていただいておりますが、FC東京の行動指針である「自立」を目指したサッカー教室とさせていただいております。これは、保護司の方々のお仕事である犯罪を犯した人の更生には、本人の「自立」または「自律」が不可欠であり、それとFC東京の行動指針が一致しているからです。当日FC東京のコーチは「どうしたらうまくできますか?」「今失敗したけれど、次のもつとうまくできるために何ができますか?」「うまくいったね、なぜなんだろう?」というように、できるだけ答えを与えず考えを引き出すようにしています。

今はとても便利な時代になり、何も考えなくても生活できるようになっていきますので、自分で考えることがうまく身につけていない中学生が増えていると感じます。

「どうしてだろうね?」と聞くと間髪入れずに「わかりません」という中学生も多いです。つまり日頃から考えるということを避けており「わからない」と答えることが身につけているのです。

こういった活動を続けていくことで、地道に中学生の自立を好きなサッカーを通じて育んでいこうと考えています。好きなことであれば自分で考えることも前向きに取り組んでくれるはずです。今後とも末永い活動にしていきたいと思えます。

中学生サッカー教室を終えて

責任者 川又 剛

七月十九日(土) 梅雨明け待ち遠しい空の下で、今年も味の素スタジアム・「アミノバイタルワールド」にて、「中学生サッカー教室」がFC東京のコーチ・スタッフのご協力を得て開催された。調布市八校・狛江市三校で約一八〇名の参加であった。

当日は、早朝より保護司が集まり、テント設営・給水所・参加賞準備等、忙しくも慣れた様子でお手伝い頂いた。準備はスポーツ大会に相応しくテンポよく順調に進行し、気持ちの良いイベントとなった。ご来賓を合わせ、総勢三〇〇名を超え、「サッカー教室」が地域の中学生と住民を繋ぐ場としても重要な役割になってきている事がうかがえる。

プロの選手たちもプレーする「アミノバイタルワールド」で、一八〇名の選手が少人数のグループに分かれ、プロのスタッフから丁寧に指導を受けていた。かつ一〇〇名以上観客に囲まれ、中学生たちの気持ちが高ぶっているのが感じられた。時には選手同士が激しくぶつかり合いながら、それも楽しむように練習する姿に、自分のプレーしてきたスポーツとの違いを感じた。スポーツの世界も常によいもの、新しいものを取り入れながら進歩していると改めて感じた。先生方の、自分たちの生徒を直接指導するFC東京のコーチングをしっかりと見守っていた、その眼差しが印象的であった。先生方とともに、この中から、将来の日本代表が生まれることを願っている。



サッカーボールの贈呈



開会式

当日は、時折小雨の降るあいにくの天気であったが、プレイヤーにとっては、暑すぎず、良いコンディションであったのかもしれないと、彼らの真剣な顔つきが、私を前向きな気持ちにしてくれた。

最後に、記念撮影し、記念品・参加賞を贈呈し、今年も無事終了した。

調布・狛江地区を担当して

東京保護観察所立川支部

保護観察官 富永 恵子

四月から調布・狛江地区担当となりました。ご縁により共に活動ができることに感謝しています。

私は立川支部勤務が五年目となり、当地区会の熱心な地域活動のことは聞き及んでおりましたが、行事や処遇活動を通してすばらしいなあと実感したことがたくさんあります。

先駆的に開拓し発展させてきた社会参加活動の際の細やかな配慮。関係機関や協力団体とともに展開する社会を明るくする運動は、市民運動としてしっかりと根付いています。協力雇用主さんとの信頼関係が日常的に保たれ、ここぞというときにケース担当の保護司さんから雇用のお願いができること。などなど、力強く思うことばかりです。

とりわけ、若手から中堅どころの保護司さんが各事業の中心となって働いておられる姿を見たときに、地域的な連携の強さとともにベテランの方々が次代を担う保護司を見守り育成しようとしていることが感じられました。保護司適任者の確保が課題となっている昨今にあつて当地区は常に定員を満たしていることを考えると、先輩たちの深慮遠謀のたまものであるかと拝察しています。

会の皆様は平均年齢も若く、本業も相当にお忙しい方々ばかりのようです。無理なく生き生きと活動していただけるよう当職も微力を尽くしますので、ご意見等は率直にお寄せください。

平成二十六年度

神代農場社会参加活動

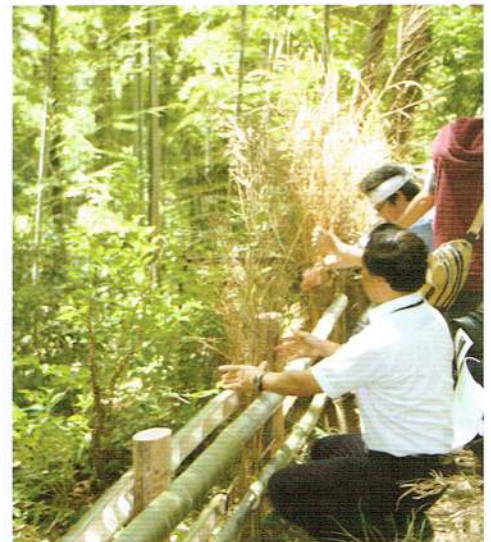
地域活動部副部長 谷田部 一之

今年度の神代農場社会参加活動は、大変暑い日になりました。

夏の日差しが差す中で調布・狛江分区の保護司の皆様、関係者の皆様大変有難うございました。当日は、例年通り午前中は、虹鱒釣り、虹鱒料理、午後からは、竹垣作りを行いました。対象者六名（一名は都合により欠席）、保護司七十名、BBS、更生保護女性会、長友調布市長、高橋狛江市長、東京保護観察所からは、石井統括官、富永主任官、森久保多摩連会長もかけつけて頂き大盛況となりました。東京都立農業高等学校の金子校長先生を始め諸先生、生徒の皆さん、前日準備からお手伝い頂き大変有難うございました。対象者全員が参加証授与の時、すがすがしい笑顔で受け取っている姿を見てあらためてこの事業の大切さがわかる有意義な活動だったと確信いたしました。



ニジマスの塩焼



竹垣作り

神代農場社会活動に参加して

矢幡 秀治

保護司として社会活動に初めて参加しました。当日は三十度を超える暑い日でしたが、農場の緑に囲まれ、気持ちよく活動ができました。

前日の池掃除、竹の切り出しから始まり、当日早朝からの準備など、保護司、更生保護女性会、BBS会員の皆様と一緒に対象者を迎えようという温かい気持ちで、微力ながらお手伝いさせていただいた私にひしひしと伝わってきました。

ニジマス釣り、竹垣作り、ポップコーン作りなどを対象者が体験していると、わまりの方々がうまく盛り上げ、自分たちも一緒に楽しんでいた様子にはとても感動しました。また、昼食時には皆さんが積極的に話しかけるなど、至る所で勉強になる場面がありました。

自分にも保護司が勤まるかどうか不安を抱きましましたが、しっかりと保護司をやっていくと再度決心した日でもありました。

社会参加活動の感想（対象者・抜粋）

・楽しかったです。趣味として（釣りを）やりたいからです。（水の中に）はだしで入って気持ちよかったです。

・くだらないことをして、また中に戻りたくないと思いました。

・（竹の生垣作りは）砂ぼこりで鼻がムズムズしていやだった。・知り合いの人が居たから、楽しかったです。

・食事は部屋の中で食べたかったです。

・ハンマーを振り下ろすのが意外に重くて全然できなかった。良い経験をしたと思います。

・自然とふれあうのも、悪くないなと思いました。これからも自然のことをもっと知りたいです。

・マスを釣るのは楽しくて、食べたらまあまあでした。カレーは美味しかったです。

・（竹の生垣作りは）ものを作るのが好きだから楽しかったです。

・家から遠くないところに、あんなに自然がある場所があつてすごいと思いました。

「青少年非行防止パネル展」アンケート集計 実施日 平成二十六年七月一日(火)

	大麻・覚せい剤などを吸引したりしている人を		大麻についてどう考えていますか			脱法ハーブを使っている人を			脱法ハーブについてどう考えていますか			保護司について?			パネル展を見て薬物のこわさがわかりましたか		
	知っている	知らない	興味がある	少し興味がある	興味がない	知っている	知らない	興味がある	少し興味がある	興味がない	知っていた	なんとなく知っていた	知らなかった	わかった	少しわかった	わかりにくかった	
中学生56人	3	53	0	9	47	3	53	0	11	45	1	7	47	8	7	3	
高校生87人	8	78	1	8	76	4	79	1	7	78	8	13	61	18	8	2	
小学生4人 大学生3人 学生ではない1人	0	8	0	0	8	0	8	0	0	8	1	1	6	1	0	1	

推進大会とコンサート

日時 七月二十一日(月)
場所 狛江市民ホール(エコルマホール)

笑顔の輪 みんなでつくろう 明るい地域 第一中学校 二年 廣瀬 美波
 助け合い 地域の人と 良い町へ 第二中学校 一年 丸山 汐音
 甘い声 さそいのにのるな ことわる勇氣 第二中学校 一年 吉永 孝祐
 一歩ずつ 夢へ向かって 歩み出そう 第三中学校 一年 松村 彩礼
 「大丈夫？」 小さな気配り 大きな笑顔 第四中学校 三年 山中 美月



社会を明るくする運動



中学生意見発表会

日時 七月二十六日(土)
場所 調布市文化会館 たづくり十二階大会議場

自分を変える

笑顔の輪を広げたい

中学生生活の人間関係

広げよう調布から思いやりの輪

経験から紡ぐ社会

心でつながるコミュニケーション

いじめ

マナーを守って明るい社会に

社会をよくするために私ができること

言葉のあやとり

今、私達が身につけるべきもの

晃華学園中学校 三年 小林英里奈

第八中学校 三年 金子 李緒

第四中学校 二年 安武 耕平

調布中学校 三年 西家 杏実

神代中学校 三年 平井萌々香

第六中学校 二年 小林みず季

明治大学付属明治中学校 三年 和田 鈴音

第七中学校 三年 樋口 航介

第三中学校 二年 長谷川侑海

桐朋女子中学校 三年 高澤はるひ

第五中学校 三年 青木 香帆



社会参加活動の感想(担当保護司・抜粹)

参加した感想

・就職に悩んでいたので「就職活動」「面接練習」になるとすすめ、参加を決めました。(対象者の)仕事観・家族・考え方等、よく話ができ良い機会になりました。

・対象者の日頃の行動を母親は心配していた。活動の説明をさせて頂くと、母子共に、即参加の返事があった。今回の体験が彼にとって少しでも役立てばうれしく思う。

・名札がニックネームで良かったのは良いアイデアだったと思います。保護司の熱心な仕事振りに、対象者も何かを感じ取り、彼らも熱心にやっていたようです。オジさん達との触れ合いは、とても良い体験だったと思います。更女の作って下さった食事が大変美味しく、子供たちも楽しんでいました。

・レクリエーションと奉仕活動を自然の中で行えたことは、対象者にとって有意義な一日となったと思います。きつと何かを感じてくれたと信じています。

今回の活動の対象者の様子

・社会人だった為か、落ち着いた様子でした。(マス釣りも)何匹も釣ってみなさんに褒められ嬉しそうでした。(先日)BBSさんとも(仕事の)話ができ、名刺をいただき「お兄さんが欲しかった」と、嬉しそうにそうに話し、協力雇用主担当とも話をし、面接にもつながりました。み



なさんから親切にされ就職の希望が持てたことなど話しながら帰りました。

・最初はやや周りの大人の雰囲気馴染めず、手持無沙汰の感があったが、参加者の中の友人の存在の影響委もあったのか和やかに活動した。今回の活動により以前よりさらに親近感を持つて接してくれるようになった。

・「そんなことやれないよ」「マスがヌルヌルする」等と文句を言いながらも結構楽しんで熱心に行っていました。帰りにはBBS同伴で、良い表情で良かったと思います。

・少し照れながらも本人らしく活動できたと思います。ただ顔見知りの友達も参加していた為お互いに気持ちが入らない場面もあったことは事実です。修了証を頂く時には笑顔を見せていたのが印象的でした。

・人見知りタイプであり話をしていなかったが、「ご飯をたっぷり食べられて良かった」と話していました。

活動を充実させるための意見

・他の対象者さんが知り合いだったようで、やはり仲間ではない方がいいと思います。

・対象者の子に声をかける、作業の中で褒めてくださると本人にもとても良いことのように思います。

・マス釣りやマスの調理を苦手としていた。別メニューが考えられるでしょうか。

・長年かけて今の形に出来上がってきたので、これで良いと思います。今後は名札をニックネームにする等の「小さな気付き」を加えていけばよいと



思います。

・多くの対象者に参加してもらおうことが大切だと思います。しかし、顔見知り同士での参加は難しいところもあると感じました。対象者が、もう少し活動に集中できるプログラムを作ることが必要だと思います。

・タイムスケジュールをつめて、昼食で終了にする対象者も参加しやすいかもれません。

講演 再非行を減らし笑顔を増やしたい

講師 NPO法人セカンドチャンス

副理事 高坂 朝人氏

五月十日(土) たづくり大会会場において、高坂朝人氏の表記講演があった。今回の自主研修は公開とされ、民生児童委員や学校の先生方を始め、百名近い参加者があった。

講演では、高坂氏の幼少の頃から今日に至るまでの生活歴を、その時々氏が感じ取られたことを交えながら話され、二十四歳でそれまでの非行や犯罪の生活から「生き直しの決意」をされ、現在、介護福祉士として活躍されるかたわら、BBSやセカンドチャンスの会員としても活躍しておられる様子が生き生きと伝わってきた。

保護司として知っているようで知らない事実ばかりで、講演の後、多くの質問がだされ、聞く者の一人一人が沢山のことを学んだ。問題を話せる人がいることの大切さ、家族の大切さ、そして更生しようとする人を受け入れる人の重要性。保護司として、最後の点をしっかりと頭に刻みたい。

総会報告

総務部長 鈴木 宗貴

四月十一日(金)調布分区、狛江分区それぞれの平成二十六年総会が開催され、平成二十五年事業・決算報告、平成二十六年事業計画案・予算案が満場一致で承認されました。

四月十八日(金)には地区総会が、調布市文化会館たづくり映像シアターにおいて多くのご来賓にご出席いただき開催されました。園田和子議長・川又剛副議長の議事運営により平成二十五年度事業・決算報告、平成二十六年事業計画案・予算案が満場一致で承認されました。本年は、懇親会の準備時間を短くしゆと考へ、映像シアターで総会を開催しましたが、ステージや受付スペースが狭く、皆様にご不便をおかけしたことをお詫び申し上げます。本年の反省を次の総会に活かし、保護司の出席数アップも図ってまいります。

桐友会だより

調布・狛江地区桐友会

会計 北川 はるみ

今年度の桐友会総会が、八月二十五日に行われました。暑さ中の総会というのも大変だから、もっと良い季節にとの声もあるのですが、変えようとするとなかなかむづかしく、伝統的に八月になっているようです。

三年前、入会してすぐ、一番若いのだから会計をとわれ、驚きましたが、大先輩の会長、副会長と共に微力ながら、桐友会の運営に関わらせていただいております。

調布狛江地区桐友会には、今年度三名の若手が入

会され、会員は十九名となりましたが、ご健康上の都合もあり、なかなか揃ってというわけにはいきません。保護司会の総務部がお世話下さることを感謝しています。会員がいつまでもお元気で、交わりを深めつつ、参加出来る会にしたいと願います。

更生保護女性会だより

ほっとけない 母の心で

調布・狛江地区更生保護女性会

副会長 小野木 悦子

四月総会を終える。

保護司会の活動「社会参加活動」で食事作りを担当。「社会を明るくする運動」等に参加しました。各部会では、「バス研修」が計画中です。是非、多くの参加をお待ちしております。

「施設訪問」愛光女子学園での七夕、盆踊りに参加しました。院生のゆかた姿、顔いっぱいのがみが印象的でした。

これからも、絆を深め母の心、母性だから出来るやさしさ、温かさを持って楽しみ、笑顔で活動出来たらと心より願っております。どうぞ、今後ともご指導とお力添えをよろしくお願ひ申し上げます。

BBS会だより

調布狛江地区BBS会

会長 北谷 慎太郎

六月一日、神代農場での社会参加活動に当地区から、五名が参加致しました。

晴天に恵まれ…というよりは、猛暑、炎天下という言葉の方がしっくりくる中での活動となりましたが、当地区会としても、新入会員が初参加し、活動の楽しさ、社会的意義を知り、今後の活動継続の意志を示してくれたことに対し、一定の成果があったものと認識しております。

会長を含め主要メンバーが続々と社会人となり、極端に稼働が落ちていた当地区会ではありますが、小さな小さな炎でも、決して絶やすことなく続けていくことが、大切なのだと思います。

退任

任期満了に思う、学びと喜び

白井 貞治

長い間の活動を通し、いつも皆様方の温かなご協力とご指導を賜わり、心から感謝と御礼を申し上げます。ありがとうございます。

保護観察の少女少女たちを更生へと誘うには、常に試行錯誤する難題がありました。が、或る少年のことがふと思ひ出されます。恐喝、傷害、窃盗。育った家庭を嫌い、夜遊びの毎日。家族の援護も受けて、働く喜びと学ぶ楽しさを共に積み重ねました。遅々とした歩みでした。少しずつ少年の力が光り始め、都立校の夜学へ。大工の修行へ。そして独立へと進みました。現在、家族を守る親となり、職人にも恵まれて活動をしています。「二〇才の成年の主張」での彼自身の生きざま披露は多くの人を共鳴させましたが、私自身の喜びと私の人生の学びとなっています。私の保護司の活動の中で有難い誇りとなって光っています。

春の叙勲



藍綬褒章
内田 武様

第三十三回 多摩地区更生保護事業関係者顕彰式典

平成二十五年七月四日

多摩地区保護司会連絡協議会会長感謝状

荒井 悟様

栗山 剛様

保護司会事務担当者

高橋 昌明様

田邊 有希様

協力雇用主

社会福祉法人 桐仁会様

～受賞者の皆様おめでとうございます～

叙位

永年にわたり更生保護事業にご尽力され、多大な御功績がありました故西山先生に対し、叙位の御沙汰がありました。

生前の御功績をしのび、この榮譽を称えたいと存じます。

故 西山節子氏

従六位(平成二十六年五月十七日付け)

保護司会の今後の予定

- 十月 九日 調布分区小学校生活指導主任との懇談会
- 十月 十五日 地区別定例研修第II期
- 十月 二十日 第七ブロック協議会
- 十一月 六日 調布分区中学校と保護観察所保護司との連絡協議会
- 十一月 二十六日 都頭彰式典
- 十一月 三十日 深大寺社会参加活動
- 十二月 五日 多摩連祝賀会
- 十二月 七日 調布分区福祉まつりバザー
- 十二月 十九日 保護司代表者協議会
- 一月 十六日 地区保護司会新年会
- 二月 五日 地域別定例研修第三期
- 三月 十二日 保護司会代表者協議会

新任保護司の紹介

平成二十六年 九月一日委嘱



狛江分区
内海 貴美

調布分区
狩野 明彦

調布分区
小林 孝

あとがき

“私達が住む星地球、地球は今どうなっているのだろうか”

日本は亜熱帯化しているのだろうか、猛暑、突風、竜巻、ゲリラ豪雨、そして降雹など、これまで経験したことのない、さまざまな異常現象が発生しました。

調布・三鷹の一部では、六月二十四日に発生した集中豪雨や降雹により道路は冠水、住宅に浸水したり、雪のように積もった雹により、住宅や農作物等に多くの被害が発生しました。

私の長い長い人生で初めて遭遇した未曾有の出来事でした。さて、今号では、中学生のサッカー教室・意見発表会、パネル展等の「社会を明るくする運動」、そして、神代農場での「社会参加活動」と、今年度前半の保護司活動を中心に掲載しました。「継続は宝なり」と申します。

先輩方の創意・工夫・努力により築かれ定着したこれらの活動。

今後も自治体の協力のもと、関係団体との連携をより一層深め、地域に根差した保護司活動を継承して行くことが重要であると考えております。

馬部 久夫

広報(編集)部員

- | | | |
|-----|-------|-------|
| 部長 | 白川 精次 | 愛甲 悦子 |
| 副部長 | 柿澤 正夫 | 伊藤 知弘 |
| 副部長 | 濱中 佳朗 | 長谷 瑞信 |
| 書記 | 嶋田 弘子 | 林田 堯瞬 |
| 書記 | 峯岸 伴則 | 馬部 久夫 |
| 会計 | 桑田 和紘 | 真山 勇一 |
| 会計 | 佐藤 亜古 | |